

令和7年6月定例会一般質問

通告3

質問 結婚支援の整備を

11番 えぐち ともこ 江口 智子 議員

【質問：江口 智子 議員】

11番、江口智子でございます。結婚支援の環境整備について質問いたします。

2015年以降、減少に転じた中標津町の人口は、在住外国人の増加による社会増があるものの、ここ数年は年間約200人から300人のペースで減少しています。出生数が低下していることに加え、団塊の世代が後期高齢者となったことで、今後も自然減が自然増を上回ることは避けられない状況にあります。

また、進学で町外に転出した人のUターンが少ない、若い世代の女性の転出が多いという分析結果も浮き彫りとなっています。

一方、町内で結婚し自然増への期待を担う方々が存在します。本日は、こうした新しい人生のステージを中標津町でスタートさせる人たちに対する支援の環境整備について、1件、3点にわたり質問いたします。



質問 婚姻数の動向と独身証明書の発行について

答弁 交付可能であり今後周知を図ってまいります

11番 えぐち ともこ 江口 智子 議員

【質問：江口 智子 議員】

1点目は婚姻数の動向と独身証明書の発行について質問いたします。

第2期中標津町まち・ひと・しごと創生総合戦略、人口減少に対応した重点施策によれば、人口減少の要因1に、未婚率の増加により出生数が低下していると明記されています。コロナ禍となった2000年以降、数年間は全国的にも婚姻数が急激に低下したと報じられましたが、コロナの前後を比較して、中標津町における婚姻数はどのように推移している

か伺います。

また、先般新聞等で法務省が独身証明書の発行を本籍地以外でも取得可能にしたとの記事を目にしました。身分の詐称や詐欺を防ぐため、独身証明書の提出を求める結婚相談所やマッチングアプリが増えていると言い、地元の役場で知り合いに知られるのは恥ずかしいという声を受けて、道内では札幌市や苫小牧市をはじめ続々と発行を開始、または予定している自治体が増えています。

こうした配慮は、いわゆる婚活へのハードルを下げ、町が結婚を後押しすることにつながると思いますが、独身証明書の発行について中標津町ではどのような対応を考えているか、あわせてお聞きします。

【答弁：町長】

議員御質問の結婚支援の環境整備について御答弁申し上げます。

まず1点目の婚姻数の動向と独身証明書の発行についてですが、婚姻数の動向といたしましては、新型コロナウイルス感染拡大前である2019年度には243件に対しまして、2020年は186件、2021年は217件、2022年は190件、2023年は194件、2024年は208件と減少から横ばいの傾向に推移をしております。

また、独身証明書の発行につきましては、法務省より独身証明書については戸籍情報システムを活用して、本籍地以外の市町村において交付することも可能である旨示されたところでございます。

これに伴いまして、本町でも交付が可能であることから、今後周知を図ってまいりたいと考えております。以上です。

質問 結婚新生活の支援について

答弁 多面的な取組を効果的に組合せ施策を進めてまいります

11番 えぐち ともこ 江口 智子 議員

【質問：江口 智子 議員】

11番、江口智子でございます。2点目は結婚新生活の支援についてです。

道内の一部自治体では、新婚世帯を対象に国の交付金を活用し、新居の購入費、家賃やリフォーム代、新居への引っ越し費用など、結婚に伴う新生活のスタート費用の支援を行っています。

根室管内では、根室市が条件によっては最大100万円までの補助を行っており、令和6年4月から令和7年3月までの活用状況は40件となっています。結婚したいけれども、費用に不安があって踏み切れないという人たちにとって、安心して新生活をスタートしてもらうため、中標津町もぜひ、この制度を活用すべきではないでしょうか。町長の考えを伺います。

【答弁：町長】

御質問の2点であります、結婚新生活の支援について御答弁申し上げます。

議員の御質問にあります国の交付金は、現在はこども家庭庁所管の地域少子化対策重点推進交付金の一つ、結婚新生活支援事業として、国と自治体が2分の1ずつ負担し、住宅取得費用や住宅賃借費用、引っ越し費用など、新生活のスタートに際しての経済的な負担を軽減するもので、令和6年度は根室市をはじめ道内62自治体が活用しております。

私としましては、この制度は新しく家庭を築く方々に対し一時的な支援にはなるものと思いますが、その後の出産や子育てといったライフステージにおいて、経済的不安は残るものと考えますし、この支援によって婚姻率の上昇に結びつくかどうか、その効果を慎重に見極めることが必要であるというふうに考えております。

本町では、令和4年度に町内20代男女に対し実施したアンケートにおきまして、結婚の障害となっている要因としましては、交際相手がいないことが最も高い結果となり、また、この障害となっている理由を出会いの場がないと回答した割合が8割ほどに上ったことを受け、まずは若者の出会い、交流の場の創出を優先施策と位置づけ、令和4年度より、若者を対象とした交流イベントの開催などに取り組んできたところであります。

人口減少の抑制に当たっては、本町の現状や若者の意識を分析し、若者の交流、出会いの場の創出のほか、出産、子育て支援、若年女性の流入や定着の対策、若い世代の雇用環境改善など、多面的な取組を効果的に組合せ施策を進めてまいりたいと考えておりますので、御理解をお願い申し上げます。以上です。

質問 部局間連携について

答弁 具体的な施策について適宜検討してまいります

11番 えぐち ともこ 江口 智子 議員

【質問：江口 智子 議員】

11番、江口智子でございます。3点目は、部局間連携について質問いたします。

結婚は人生において大きなイベントであり、結婚して子をもうけ、家庭を営む2人は町にとって人材、人の財と言っても良いと思います。同じ方向に向かって歩み始める2人を町として感謝の気持ちを込めて祝福してはいかがでしょうか。

最近は写真や動画を駆使し、自分たちの結婚や出産を自己プロデュースする人が大変増えています。例えば結婚指輪をした2人が婚姻届を持った写真をSNSに載せて結婚報告をしたり、徐々に大きくなっていく奥さんのお腹を大切そうに見つめる御主人との写真を月毎に投稿する等、昔は紙の写真を綴ったアルバムが何冊もたまっていたのですが、今はデジタルが主流となりSNSに記録をとどめる時代になりました。時代に対応すべく、釧路市のように中標津町オリジナルの記念用婚姻届を用意したり、入籍した人に町長が直筆のお祝いメッセージを贈呈する等、SNS映えするアイテムを作成し祝福を伝えてはどうでしょうか。

こうした傾向性は、最前線で窓口業務に当たる職員の皆さんが敏感に察知しているでしょうから現場の声を反映させて、町は結婚した2人を祝福し大切に思っていますというメッセージとして伝えていくことが、まちへの愛着につながり、いずれは結婚を祝ってくれるから中標津で結婚したいという評判を呼ぶかもしれません。

そのためにも、関係部局間で意見を出し合いながら検討していただきたいと思いますが、こうした部局間での話し合いはこれまで行われてきたのでしょうか。また、行われていないのであれば、今後、開催の意向についてどのように考えられているかお聞きします。

【答弁：町長】

御質問の3点目であります部局間連携について御答弁申し上げます。

議員御指摘のとおり、本町において婚姻の届出を出される方に対し、何らかの形で祝福のメッセージをお伝えすることも、町に対する愛着、イメージ醸成につながるものと考えます。

婚姻届は全国のどの自治体でも受理することが可能なことから、全国でも観光PRや関係人口の創出、移住・定住促進につなげるため、オリジナルの婚姻届を作成している自治体があることは存じております。

本町におきましても、今後は住民からの要望や意見を庁内で収集するなど、必要に応じて話し合いや調整を行ってまいりたいと考えております。

また、関係部局間での意見交換につきましては、常に良好な連携を維持することを目指しており、具体的な施策につきましては適宜検討してまいりたいと考えておりますので、

御理解を賜りますようお願い申し上げます。

【質問：江口 智子 議員】

11 番、江口智子でございます。再質問させていただきます。

伺ったところ、昨年の婚姻数 208 件のうち、結婚情報誌の付録など、オリジナルの婚姻届を使用したケースは 4 割程度に上るとのことで、ニーズは十分にあると言えます。

特に役所に提出する婚姻届とは別に、手元に残せる記念用婚姻届や結婚証明書の類いは、自然増の要となる方々にとって、折に触れて中標津町民であることを意識させる記念の品になると考えますが、こうしたことを踏まえ、庁内における話し合いや調整の在り方について、どのように進めていかれる予定であるか伺います。

【答弁：町長】

再質問にお答え申し上げます。

婚姻届のオリジナルの届出用紙というのは 4 割というふうにおっしゃいました。そのとおりでございます、そのうち自治体ですね、オリジナル届出用紙というのは 2 件ございまして、数字にしまして 4 % というふうになります。

あともちろん婚姻届の提出時には、職員のほうからも当然、お祝いの言葉を添えておりますし、また、届出用紙につきましては、実は民間サイトのオリジナルの届出用紙というのが何百種類も実はございまして、ダウンロードできる環境がございまして、それを使っている方も多くいらっしゃるの事実でございます。

今後、研究を行ってまいりたいと思っております、どのようなものかというのも含めてですね、検討してまいりたいというふうに考えておりますので、御理解をお願い申し上げます。